

最終試験結果の要旨

報告番号	理工研 第405号	氏名	土居真輔
審査委員	主査	山本啓司	
	副査	小林哲夫	仲谷英夫

平成26年7月24日、午後1時から行われた学位論文発表会において、審査委員を含む17名の前で学位論文の内容が説明され、その後、以下に示すような質疑応答が行われた。いずれについても満足すべき回答を得ることができた。

問：宮崎の近郊にあるとされている「内ノ八重デュープレックス」は池之段覆瓦ファンの鏡像になっているようだが、両者の関係は？

答：内ノ八重デュープレックスは白亜系と古第三系の境界部に形成されているが、池之段覆瓦ファンは白亜系層群の間の境界付近に生じている。両者の形態は似ているが、テクトニックセッティングが異なるので直接の関連性はないはずである。

問：重鉱物の画像で角閃石が自形ではなくて丸みを帯びている。そのような角閃石の起源について説明してほしい。

答：重鉱物の化学組成を測定していないので確定的なことは言えないが、光学的な特徴から、おそらく変成岩由来のものが多いと思われる。

問：砂岩の構成物に「多結晶石英」があるが、どのような意味で使っているのか？

答：多結晶石英は、顕微鏡下で多数の小さい石英粒からできていることが判別可能な砂粒のことを指している。それは石英質の岩石から生じた砂粒であろうと思われる。

問：池之段層の微化石年代についてのデータはないのか？

答：放散虫による年代は、大川層群と高尾野層群はアルピアンからセノマニアン、終野層はコニアシアンであると米田・岩松（1987）に報告されている。池之段層の微化石年代は、大川層群の範囲に含まれるはずである。本研究では放散虫は扱っていない。

問：池之段層の玄武岩の年代は？

答：玄武岩を直接測定した年代値は存在しない。付加体の形成メカニズムから類推して、玄武岩は砂岩、泥岩、チャートなどよりも古いはずである。

その他に、地質構造の解釈に関することなど、さまざまな質疑がなされたが、それらすべてに對して的確な応答をしていた。以上のことから、本委員会は当人が博士後期課程の修了者としての学力ならびに見識を有するものと認め、博士（理学）の学位を与えるに足りる資格を有するものと認定した。